

平成26年度第1回さぬき市図書館協議会 会議要旨 (要約)

- 1 日 時 平成26年7月14日 (月) 13:30～15:30
- 2 場 所 さぬき市教育委員会2階第5・6会議室
- 3 出席者 [委 員] 合田誠 向山智恵子 井上綾子
 石原克二 有岡融代 石川智治
 池田洋子 工藤衛一 松木みどり
 [事務局] 安藤正倫 中野敏記 六車均
 二宮澄夫 大山須美子 六車智穂 伊関謙一郎
 [傍 聴] なし
- 4 議 題 (1) さぬき市図書館協議会委員長及び副委員長の選任について
 (2) 平成25年度さぬき市図書館事業報告について
 (3) 平成26年度さぬき市図書館事業計画について
 (4) さぬき市子ども読書活動推進会議について
 (5) その他
- 5 会議の内容は次のとおりである。

発言者	意見概要
(事務局)	ただ今から平成26年度第1回さぬき市図書館協議会を開会します。会議に入る前に会議の公開について確認させていただきます。 (事務局より会議の公開等の取り扱いについて説明)
(委 員)	(公開することです承)
(事務局)	本日の傍聴はありません。 本日の会議の開催にあたりまして、安藤教育長よりご挨拶をお願いします。
(教育長)	(教育長あいさつ)
(事務局)	議題に入ります前に、今年度改選の時期でありましたので、全委員の自己紹介をお願いします。
(委 員)	(自己紹介)
(事務局)	まず、最初に本日の資料について、ご確認させていただきます。
(委 員)	(資料確認)
(事務局)	それでは、議題に移りたいと思います。議題1 さぬき市図書館協議会委員長及び副委員長選任についてですが、選考方法はいくつかあると思われませんが、どのようにいたしましょうか。
(委 員)	推薦で、池田委員にお願いしたらと思います。前回は副委員長をなさっていたので。
(事務局)	委員長に池田委員をとということですが、よろしいでしょうか。

(委 員)	了承
(事務局)	次の、副委員長は推薦、立候補はございませんでしょうか。
(委 員)	事務局案がありましたらお願いします。
(事務局)	それでは、事務局案といたしまして、副委員長は向山委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
(委 員)	了承
(事務局)	それでは、委員長、副委員長には、委員長、副委員長席にご移動をお願いします。
(事務局)	それでは、議題2に移りたいと思います。さぬき市図書館規則第2条第2項によりまして、議事の進行は池田委員長にお願いいたします。
(委員長)	それでは、議事に沿って進めさせていただきます。平成25年度さぬき市図書館事業報告について事務局から説明をお願いします。
(事務局)	(1.平成25年度さぬき市図書館事業報告書についてを説明する。)
(委 員)	ちょっといいですか。予約・リクエスト件数の件数とは、冊数のことを言っているのですか。1回に5冊予約しても1件という考えで。
(事務局)	1冊に対し、予約をかけるのを1件と考えます。
(委 員)	1件で1冊ということですね。
(事務局)	そうです。
(事務局)	(再び事業報告書について説明)
(委員長)	事業報告について、何かご質問はありますでしょうか。
(委 員)	年齢別利用者割合ですが、これは図書館に来館した人の割合をあらわしているのでしょうか。来館した人の年齢というのはわかるのか。
(事務局)	利用者の方の年齢は、最初に登録するときに生年月日を入力しますので、その年代の方が何冊借りられているかはデータに入りますので。
(委 員)	本を借りられた方の割合ということですね。来館しただけではカウントされないということですね。
(事務局)	そうです。入館しただけのものは、入館者数になります。入館した人の中で、本を貸し出した人の人数を、年齢別貸出利用者数に表しています。
(委 員)	先ほど事業の説明があったように、60歳以上の方が26%、4割を占めている。最近思うに、興味ある本もあるし、読みたい本もあり、勉強したいと思うこともある。若いころに、こういった本が目についたらもっと仕事等に活かされたのではないかなという残念感を感じるわけです。この年になって、この本は面白かったなというのもありますし、そういう思いを、若い人たちに知ってもらいたいとか、本というものはこんなに面白いんだよというところをPRしてもらいたい。お忙しいと思うが、土日の休みでしか来られない方もいらっしゃると思いますでしょうし、平日は午前10時

	から午後6時までですから、行きたいといっても行けない人もいらっしゃると思いますし、どこかで接点を見つけてバランスというか、万人に喜ばれる方法も話にならないものか。今になって言うのもおかしな話だけれども。
(委員長)	若い世代にひきついでもraitたいという本が。
(委員)	ありますね。
(委員長)	中に、今の子の年代のってのもある。それを知らせてあげたいという思いですね。
(委員)	そうですね。私個人の考えで好き嫌いで判断できないでしょうけれども、もっと若い世代に図書館にどんどん足を運んでもraitたいなど。
(委員長)	そうですね。図書館の方からしたら、どうですかね。今までの経験からの、非常に大事な意見だと思いますが。
(事務局)	図書館の動きとして、読書体験をつなげていくという活動があります。まさにおっしゃっていただいたのは、このことだと思います。例えば、館報、図書館だよりのようなものにどんどん載せこんでいくというのもあるでしょうし、あと、読書会のような形もあるでしょうし、こういう読書体験を通じて利用者の方がつながっていくというようなことをしていこうというのは、図書館の中で動きがありますので、是非それらを形にしていけたらなと思います。
(委員)	もう一件は、今までの学校図書館関係は、教師の方が兼任かどうかは別として、学校司書というのは、おありなんですよ、各学校には。その方々はどんな活動をしていらっしゃるのか。
(副委員長)	規模の大きい学校については、司書業務という形になりますけれども、大抵の学校においては、図書館活動支援員というような形で各学校に入っただいて、図書の整備とか、子どもたちへの本の推進とかをいただいています。ほとんどは教諭と司書を兼ねて仕事をしています。
(委員)	兼務ですね。月末だか期末だかは別として、本の整理も司書の仕事になるのでしょうか。
(副委員長)	してもらっています。なかなか担任をして両方兼ねるとなると…
(委員)	大変ですよ。
(副委員長)	はい。その分非常に助かっております。
(委員)	市の図書館のように、これに関しての本は貸してもらえますかということがあったときに、これはあそこにありますというように教えられるんですか。
(副委員長)	だいたい把握しています。
(委員)	そうなんですか。この委員会に出席させていただいているんですが、ほ

	とんどの学校の先生方はお忙しくて、発言の回数も少ないのでよくわからない事もあるんですけども、そうなんです。わかりました。
(委員長)	今、すごく学校の方でも、図書室が充実しております、私も時々行かせてもらっていますが、図書館の方でその年齢の貸し出しが減っているのは、図書室にも本があるのでそちらを利用しているのではないかと思ったりしますね。
(委員)	はい、わかりました。以上です。
(委員長)	ほかに質問はありますか。
(委員)	今、さぬき市の学校図書館で、司書さんがおられる学校はどのくらいなんでしょうか。
(教育長)	1校除いて全校あります。
(委員)	全校にいるんですね。
(教育長)	その1校は、学校図書を希望していないんです。小さいのでいらないと。
(委員)	まあ、全校に司書さんはいらっしゃるわけですね。はい。
(委員長)	他にありませんか。
(委員)	年齢別利用状況の、年齢別貸出利用者数なんですが、7歳から12歳が、-940と大きく数を減らしてますね。これに対して何か理由があるんでしょうか。理由を分析したんでしょうか。それともう一点。参考の24年度と引っ張り出してきてるんですけど、何で24年度がここにでてくるんでしょうか。この-940というのは、平成25年との差というのはわかるんですが。
(事務局)	25年度と比較するために、1年前の数字である24年度の数字を出しております。
(委員)	前回のときの25年度の数字が違っていると思うが。
(事務局)	前は2月に行っている会議ですね。2月の会議のものは、年度末の数字が入っていないので、中間報告となっております。3月末に出てきた数字のものが、今回の数字となります。
(委員)	平成24年度の数字が参考になるのはわかりました。それともう一点の、7歳から12歳の利用者数の、940も減らした原因はあるんですか。
(事務局)	まず、カウンターに座って感じるのは、子どもさんの普段の来館者数が減ったなと思います。そのあたりは、放課後児童クラブですとか、放課後の学童保育のような…
(教育長)	放課後の外出が危ないので、放課後児童クラブで子どもたちを安全な場所においているというのが徹底されてまいりますと、放課後に図書館に行くという子どもさんが減ったということですね。
(事務局)	本当に、一人だけとか、子どもだけで来ることが減りました。そのあた

	り、防犯ですとか、そういった意識も高くなってきているということもあるのかなど。あと、もう一つは学校図書館の充実というのももちろん挙げられると思います。人も付けば、整備がされていきます。それで、そこで本を借りた方が便利であろうかなという気はします。
(委員)	学校の図書室のものを借りてこちらが減ったというのであればいいんですけどねえ。
(委員)	これは、年々減ってきているのですか。
(事務局)	そうですね。ここ数年減ってきている変化ではあります。逆に学校の方の利用はどうなんでしょうか。増えてきているんでしょうか。
(副委員長)	私も、昨年度からなので、最近の情報しかわかりませんが、結構、学校の図書館の本を借りて帰っています。学校も新刊図書が年々増えておりますので、読むのは年々増えてきていると思います。
(事務局)	そうだと思います。全国的な調査を見ても、読書の量は微増微減ぐらいなんですけど、図書館に来る人数として減っているのは、そういったところの読書環境の充実というものがあると思います。でないと、全国調査読書量も大きく減らないとおかしいので。
(副委員長)	今日の結果を見せていただいて、学校の方でももう少しPR、いい本がたくさんありますので、働きかけたいと思います。
(事務局)	あと、職員の間では、学校図書館の方に市の図書館の本を貸し出しすることはできないかなということ…
(委員)	団体貸出で学校の方にもいっているので…
(事務局)	団体貸出もあるんですが、団体ではどうしても持っていく本は、こちらでこれはどうかなというものになるので、そうではなく、一般の大人が予約するように子どもの予約の受け取りの窓口を学校図書館で行うことはできないかなということは少し考えています。
(委員)	ちょっと話が飛びますけど、学校と市の図書館を両立させて、学校からも市の図書館の本を借りられるとかはできないでしょうか。
(事務局)	学校からのご依頼があれば、貸し出しをしています。なので、今現在貸し出しは可能です。
(委員)	生徒さんが学校に、これこれこの本の貸し出しを学校に言えば、それで届くというわけですね。
(事務局)	結果的にはそうすることは可能です。
(副委員長)	国語の教材で、もう少し同じ作者の本で、ほかの本も読んでみようと言ったときに、学校に全てがあるかということ、無い場合があるので、そういう場合に市の図書館にお願いしたりという状況はあるんですが、なかなか、同じように授業をしておりますので、重なっていたりするのを聞いたこと

	があります。
(委 員)	頭の回転がいい子は、すぐにインターネットを使って市の図書館に本を予約できますよね。こういう作者の本が欲しいとかいう。それは可能なんですよ。
(事務局)	子どもさんが個人でということですよ。
(委 員)	要するに子どもさんがカードを持っていれば。
(事務局)	そうです。できます。ネットを、お子さんが使う環境であるのであれば、そうですね。
(委員長)	学校の図書室が充実していたら、ひょっとしたら図書館の方には一緒に保護者の方と行かなければいけないということで利用者が減ってくるかもしれないですね、時間的に。図書室が充実していれば、それはそれで学校の方で借りていただければ。数字はマイナスになっていますけど、ひょっとしたらそういうことも考えられるのではないかなと。
	ほかに、何か質問はありますか。
(委 員)	地区別貸出冊数というのは、全部図書館ですか。公民館の貸し出しとかではなくて。
(事務局)	図書館のみです。
(委 員)	のみですか。津田・大川・長尾と、それぞれ貸し出ししているのは志度・寒川図書館どちらを利用しているとかそれはわかりませんか。
(事務局)	図書館を利用している方が、どちらを利用しているかですか。
(委 員)	主にどちらを利用しているかとか。
(事務局)	わかりません。データが出るようになっていないので。
(委 員)	前にも質問したけれど、この中には、公民館で借りたものはカウントされていないと。
(事務局)	カウントしていません。
(委 員)	だから、利用者数は、もっと変わるかもしれない。
(事務局)	そうですね、それを含めると。
(委 員)	逆に、それは何に使われますか。志度の方が寒川図書館を使ったとか、寒川の方が志度の図書館を使ったとかの情報は。
(委 員)	どういう地域の方が遠距離で志度へ借りにきているとか、寒川へ借りに来ているとか。ちょっとそういうので聞いてみたんです。
(委 員)	何か使えるのかなと思って。
(委 員)	いえいえ、そういうんではないんです。
(委 員)	はい、わかりました。
(委員長)	ほかに何かありますか。
(事務局)	一つだけ補足させてください。

(委員長)	お願いします。
(事務局)	地区別貸出冊数の全体の欄の下の端、3.0、いわゆる市民一人当たりが、この年度中に何冊の本を借りているかという数字でございます。これは、さぬき市の図書館では3.0ですが、全国平均が3.2だそうです。従って、もうちょっと頑張らなきゃいかんというのが我々スタッフ側の考え方でございます。以上です。
(委員長)	ありがとうございます。ほかにはもうございませんか。無いようでしたら、また、後からその他でご意見をお聞きしたらと思います。 次に、平成25年度さぬき市図書館運営状況について、事務局から説明をお願いします。
(事務局)	(2. 平成25年度さぬき市図書館運営状況を説明する。)
(委員長)	何かご質問があれば、どうぞ。何かありませんか。なければちょっといいでしょうか。研修関係の、著作権セミナーを研修されたということなんですが、できたらボランティアさんに研修で教えていただければと思います。著作権のこと、コピーはいけないし、いろんな制約があつてなかなか難しいところがあるんですね。また、機会がありましたら研修をしていただければいいなと思います。
(事務局)	わかりました。
(委員長)	何かないでしょうか。
(委員)	今のと同じ話なんですが、情報とは一人だけの情報じゃなくて、関係者全員に行き渡るようにした方が、あとあと便利だということですよ。
(委員長)	そうですね。わかりました。また、研修でせっかく受けられているので、皆さんにわかるようにまた機会がありましたら研修を開いていただいたらと思います。よろしくお願いします。
(事務局)	わかりました。
(委員長)	ほかにありますか。なければ、3. 平成25年度決算について、よろしくお願いします。
(事務局)	(3. 平成25年度決算についてを説明する。)
(委員長)	何かご質問はありませんか。
(委員)	聞き漏らしたのですが、かさ上げとは、どの費用になるのですか。
(事務局)	図書館システムのサーバーが志度図書館の1階にございます。
(委員)	サーバーが。
(事務局)	はい。一般の人が入れないところに置いています。志度図書館は、ご存じのとおり海拔が非常に低いところにありまして、高潮津波等に今ドキですけれども非常に心配になってきているもので、平成25年度中に、約1mくらいサーバーを上を持ち上げた、その時のコスト等です。

(委 員)	それが、どこにあるんですか。維持管理費ですか。
(事務局)	役務費に含まれていまして。4万2千円の差がでていまして。
(委 員)	4万2千円がかさ上げの費用ですか。
(事務局)	そうです。
(委 員)	ああ。そういうことですね。はい、わかりました。
(委員長)	ほかに。
(委 員)	もう一件。かさ上げで1mとは、高潮に対してのかさ上げですか。
(事務局)	そういうことですね。暫定的に今年度システム改修で全面入れ替えるというのを、26年度で5年が経過いたしまして、その時までの間に、大きな高潮等がきて浸かったらデータが全滅しまいますんで、そういう心配を当面なくそうと対策をしました。
(委 員)	別件ですが、3. 平成25年度決算についてというのと、まだですが、議題(3)の2. 平成26年度予算についてというのが出てきます。何を言いたかったのかというと、25年度予算に対して25年度実績がどうだったかというのは、どこで見ると思ったのが、平成26年度予算のほうに25年度予算があるんですよ。私が社会人の時によく作ったのが、計画実績の対照だったのですよ。で、計画は当然その時の予算あるいはその年の収支に影響するわけですから、その予算と実績がどう狂ったのか、それによって資金繰りとか影響があります。どちらかというと、前年度の実績と今年度の実績とは当然必要なんですが、その、25年度の経過報告というのは26年度の実績経過報告とどっかに一緒にして一つの表現にしてしまえばまずいのかな、と思ったのですが。
(事務局)	25年度の決算につきましては、私も思ったのですが、ここで25年度の当初予算と、25年度の決算とを出しておくのが通常だと思うのですが、昨年もこうなっておりましたので、私もその辺はこういう形でしているものだと思ってそのままつないただけで。来年からは、26年度当初予算と26年度の決算を載せたらなと思っております。そうでなければ25年度との比較というものが、変な回答になってしまうと思うので。
(委 員)	結局、実績結果、経過実績対照という作り方をしているのは、普通じゃないかと思って。当然、経過は経過、実績は実績という対比をやって、いろんな面で使うことがあると思うんですけど、ここで24年度の実績と25年度の実績だけを並べてもらっても、何をどういうふうに見たらいいのかという疑問があったものですから、お尋ねしました。
(事務局)	わかりました。来年から訂正します。
(委 員)	もう一つは、別件なんですけれども、インターネットの各委員会とか協議会の議事録が掲載されていますね。たまたま、25年度の第2回行政改

革推進委員会の議事録を見ていたんですけれども、25年度の10月17日に出てくるんですけれども、その中で、「図書館の運営費が非常に少ないように感じられる。予算を増額するべきじゃないか」という意見が書いてありました。まあ、これは行政改革推進委員会だけでおっしゃったんだろうと思うんで、当然、窓口は政策課のはずなんですけれども、政策課の方でこれを聞いて、聞きっぱなしにしたのかどうかは私は知りませんが、こういう意見があるということであれば…。ただ、ここで例えば10万増やしたら10万でやらんといかんのやという話になってきますから、何が何でもせえよという話ではなくて、そのあたりはそういう意見が出た時にはさぬき市としてはどういう風に対処すべきなんでしょうかねえ。とんでもないところからそんな話がでてくるんですよ。行革の方で出てくるのは、これは市長さんの話じゃなくて、市長さんは、いるものはいるんだから、お金が無い無いいいながらいるものはいるんだから話をしたらいいわけですよ。だけれども、無い袖は振れないという言葉がありますように、無けりゃどうしようもないわけですよ。そのあたりの兼ね合いと申しますか、どう思うように考えていらっしゃるか。まあ、それを市長さんに持っていっても仕方ないだろうけれども。

(課長)

確かに行革の委員さんの答申の中にですね、こういう話がでてくるのは原課からしたら大変ありがたい話ですが、あくまでもこの行政改革委員会での、多分一委員さんのご意見を吸い上げたのかなと。委員会全体の総意ではないんだろうと思います。行革委員会自体が、それぞれの委員さんの意見を吸い上げているものか、あくまでまとめたものを答申として市長に提出しているものか、若干こういう予算面の話が出てくるとどうなんかなという話がありますので、ただ、おっしゃるように政策課がそれを受けてもちろん市長に答申をいたします。で、市長がそれに対して、図書館の予算に対してこういった意見があるというのは多少なりともあるんであれば、こういったところで予算が足らんのやというような打診はあるということで、それを原課なり図書館なりで考えていくと。で、優先順位として図書館の規模を充実させるのか、または図書館の本を充実させるのか、そういった予算の使い道は、多少吟味はしなければならぬと思いますが、一挙に何百万何千万の予算を増やすとは聞きませんので、多少の右肩上がりの予算要求は原課としてはしていくつもりでありますし、それについて、まあ財政状況もありますからどうなるかわかりませんが、そういった努力はしていかなければいかんと、そういったご意見があるのは、ありがたいと思います。

(委員)

それはそれで、組織というものはそのなんですけれども、どこかで出た

	<p>話を、どこでまとめるかなんですよ。市にしても課にしても、あるいは部にしても、どこで吸い上げてどういうふうにまとめて持っていくのか持っていないのか、この話はここでおしまいとするのか、部長のところまでもっていくのか、そのあたりの切り上げといいますか、それが組織というものだと思うんですよ。言っぱなしの切りっぱなしじゃ、何やっているかわからんというわけで、これはここで面倒見るよとしちゃうのか、それはほったらかすのか、いうところをですね、やっぱりきちっとしとかないと、いつまでたっても委員会はボンボコボンボコとタケノコのように出て、全然決まっていけないから前に向かって進んでいけない、改善もできない、というようになってしまっちゃいかんと思うんですよ。そのあたりを、これは図書館だけの話じゃなくて、全体として言えることではあるんですけど、いかに組織というのがまわっていくようにするかを考えていかないといけないなという感じはします。</p>
(委員長)	<p>ありがとうございます。ほかに何かございませんか。なければ、議題3 平成26年度さぬき市図書館事業計画についてお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>(1 平成26年度さぬき市図書館事業計画を説明)</p>
(委員長)	<p>続きまして、2 平成26年度予算について説明をお願いします。</p>
(事務局)	<p>(2 平成26年度予算についてを説明)</p>
(委員長)	<p>平成26年度事業計画と併せて、予算について何か質問はありますか。</p>
(委員)	<p>さっきの年齢別のものに帰るようになるんですけども、60歳以上の割合が26%と、さぬき市内の高齢者の割合が増えている。図書館の利用率も、増えていっていると思うんです。ということは、高齢者を対象にしたもう少し健康に力点を、図書館の本を持ってきたらどうですかね。</p>
(委員長)	<p>どうでしょうか。健康についてご意見があったのですが。</p>
(事務局)	<p>平成25年度に、予算決算のところでご報告いたしましたが、特別枠でいただいたお金がいくつありました。そのお金は、健康とか、医療の本に特化して購入させていただきました。ということで、今年は特別枠予算がありませんので、25年度の本をできるだけ積極的に活用してくださいという啓発もやりながら今後将来、高齢者といいますか、60歳以上対象の図書も新規購入をある程度配分を考えてやっていかなければいかんなどというふうに考えております。</p>
(委員長)	<p>数字から見ると、すごく60歳以上の利用が多い。赤ちゃんとかお子さんとかはおはなし会とかがありますけれども、なかなか高齢者を対象とした行事はないですね。図書館の方に。是非、意見を参考にさせていただければと思います。ほかに何か。</p>
(委員)	<p>25年度の予算で、庁用費が5百万となっております。図書館システム更新</p>

	等となっていますが、これは図書館システムの更新というのは、全部やり替えるわけではないんですよ。再リースじゃないんですか。仮に再リースとすれば10分の1になりますよね、リース料。
(事務局)	現在使っておりますシステムは、平成21年度に特別な予算がありまして、購入したシステムを使っております。
(委員)	購入したシステム。
(事務局)	はい。いわゆる買い入れた…
(委員)	リースじゃなくて買い入れた。
(事務局)	はい。昨年あたりから、老化がちょこちょここと、業務中結構発生しておりますで、幸い26年度中にシステムを入れ替える予算が可決しましたので、現在やり替えの計画を進めております。
(委員)	それはまた購入ですか。
(事務局)	今度はリースになります。一般財源で購入します。
(委員)	そういうことですね。それと、現在のシステムは、26年度の方には移行できないということですか。
(事務局)	実はシステムの中に、WindowsのXPが使っております。ですので、今のシステムをできるだけ早く更新する必要があるかなと思っております。安全性を考えて。
(委員)	XPをやめて、何にするんですか。
(事務局)	新しくWindowsの7なり8なりを使うようになると思います。安全性の面で、もう効きませんので。
(委員)	いっぱいいっぱいということですね。
(事務局)	はい。もう保証は切れておりますので、できるだけ早く。
(委員)	はい、わかりました。
(委員長)	ほかにございませんか。
(委員)	高齢者の方の本の貸し出しということでのつながりなんですけど、高齢者の方みんながみんなインターネットを使えるわけじゃないと思うんですけど、それはどういうふうに対応されますか。インターネットを使えない人向けに本の予約をどうするか。図書館だよりとかにインターネット予約受け付けていますとか書いていますけど、そのみなさんがみなさんパソコンを駆使できるわけではありませんので、高齢者向けに対応できるのを考えていただいて。
(事務局)	いわゆる、インターネットですとか、そういう機器を使うことに対して抵抗があるとか、使いづらいと思っている方が、ある程度の割合では思います。基本的には紙ベースで出していただく方法についての周知、それから電話などは手軽にさせていただける方法とは思いますので、そのあ

	<p>たりの利便性を上げるとか…</p>
(委 員)	<p>図書館だよりとかで告知をするというのはとても大事だと思います。</p>
(事務局)	<p>そういう方に周知するには、どこに周知をすれば効果的と思われますか。</p>
(委 員)	<p>図書館だよりのところは、いつもおはなし会とボランティアのことしか書いていないので、あそこはもっともっと充実させるべきだと思います。お年寄りの方は時間があるから、結構広報誌って読んでいると思うんですよ。</p>
(事務局)	<p>市の広報誌ですね。</p>
(委 員)	<p>市の広報誌です。それをもっともっと有効活用するべきだと思います。</p>
(事務局)	<p>わかりました。</p>
(委員長)	<p>前は、もっと図書館のページが大きかったんですね。市の広報誌は。</p>
(委 員)	<p>そうなんですか。それがおはなし会と古文書講座のことばかりになっているんですね。</p>
(委員長)	<p>図書館のお知らせとかが増えればいいんですけれども。だんだん、図書館のコーナーが小さくなってきているのが気になりますね。</p>
(委 員)	<p>それこそ高齢化社会になって本当に本を必要としている方がいらっしゃると思うんですけれど、インターネットが駆使できないから電話するというふうになっているから、もっと高齢者の方が利用できるように、インターネットとかだけじゃなくて、告知して差し上げるべきだと思います。</p>
(委員長)	<p>高齢者の方の利用が増えておりますので、そこらあたりを考えていただきまして。</p>
(事務局)	<p>ほかに何かありますでしょうか。載せた方がいい情報として。</p>
(委 員)	<p>最近何か少し変わってきていると感じています。これとは別の話なんですけれども、図書館の入り口の、お年寄りが将棋とか碁とかされているお部屋は、あれはサロンとして所在しているものなんでしょうか。それとも、この年代の利用者率が高いんですけれども、あそこへ行って囲碁とか将棋をされている方も人数の中に入っていて本とは全く違った形で利用している人数で出ているものなのか。あそこはそういうサロンとして生かすためにできたものなのかどうなのか。よくわからないんですけれども。静かに勉強すべき図書館の入り口が、市の図書館は騒々しいのでちょっと入りづらいので、これからもっともっと高齢化社会を迎えてきたら、別の所にそういうサロンのようなものを造るべきなのかどうなのか、そういうところも気になっています。図書館だよりとは別の話になってしまいましたが。</p>
(委員長)	<p>ありがとうございます。ほかにございませんか。無ければ、議題4のさぬき市子ども読書活動推進会議について、よろしくお願いします。</p>
(事務局)	<p>(子ども読書活動推進会議について説明する。)</p>

(委員長)	子ども読書活動推進会議について、ご質問はございませんか。
(委員)	質問…じゃなくて今聞いただけでどう返事したらいいかわかりません。これはいつまでに返事したらいいわけですか。
(事務局)	秋までに。アンケートは秋に行いますので、何かあれば教えていただくと、参考になるかなと思います。
(委員)	ちょっとわからないんですよ。今日の今日で返事くれと言ったって。中のアンケートの中身を見ていないし、アンケートをして一体何をしてどういうふうに皆さんに追求するのもわからないし。あの、何かわかりませんか、すみませんでいっちゃうのか、それとも、もうちょっと一週間なり十日なり、時間を置きますから返事してくださいでいくのか。ちょっとわからんですね。今日じゃないにしたって…最初からいいますと、25年度の計画及び目標の実施状況について、ありますね。この意味がわからなかったのよ。25年度の計画及び実施状況って書いてあって、推進計画があって、家庭、年次計画、計画等実施状況、これ、言葉の中では、家庭という部門なのか、家庭に今アンケートをもらって書いてるわけですね。
(事務局)	違います。推進会議における協議内容を、最終的に取りまとめたものです。
(委員)	推進会議…何の推進会議ですか。
(事務局)	この後にあります子ども読書活動推進会議ですね。議題にもあります、さぬき市子ども読書活動推進会議です。
(委員)	このタイトルにしてもね。25年度計画及び目標の実施状況についてとありますが、何の計画で、何をどうしたか見えないんですよ。タイトルだけでは。
(事務局)	計画につきましては…
(委員)	計画って…我々は普通は販売計画、販売実績、とかいう言い方をするわけですよ。計画と言ったら、みんな計画じゃないですか。ほかの部分を含めて。何の計画を持ってきてその計画の目標は何だの、その実施状況はどう把握するのかというのを、これは見えなかったんです。ずっと読んでいたら、「個人的には読書の時間をとったりできた。」と。個人的な話が出てくるのかと。
(委員長)	アンケートの内容を検討したらいいのですかね。
(事務局)	議題4の中の、ご報告する内容は二つあります。一つ目が、推進計画における年次計画の昨年度の報告です。それがまず一つ目です。それが資料①になります。そして、資料②は、新しく推進計画を作成するにあたって、アンケートを行いますので、こういうアンケートでいこうかと思えますという資料を付けています。ですので、内容は資料①と②で違ってきます。

(委員長)	アンケートの、今言っていた次期の推進計画についてのアンケートの内容は、ここで委員さんに考えて帰ってもう一度意見を聞くということで…
(事務局)	基本的には、推進会議においてご協議をいただくものです。
(委員長)	こういうことをします、という報告ということなんですね。ここで検討するということではなくて。
(事務局)	そうです。
(委員)	何をするか知っというて、という話ですか。
(事務局)	ご報告ということです。
(委員)	そういうことでいいんですね。わかりました。
(委員長)	こういうことをします、推進会議の委員さんの皆さんで考えますということなんですね。
(事務局)	これから考えます、そのたたき台の資料です。
(委員長)	質問、意見をどうぞ。
(委員)	アンケートの内容は、次の会議で決めるんですか。
(事務局)	この後の、子ども読書活動推進会議で。
(委員)	内容について、ちょっとこういうところをいれたらどうかということがあったので。今でもいいですか。
(事務局)	どうぞ。
(委員)	あと、私自身の体験から、子どもはいつも身近なところから学ぶと思うんですよ。それで、「あなたのお父さんやお母さんとかはもちろん、おじいさんやおばあさんは、本はお好きでしたか。」というのが見当たらなかったもので、そういうのをちょっと必要があるかなど。環境によって、子どももいろいろと本が好きになったりすると思うので。そういう意味でそういうのを入れたらどうでしょうか。
(事務局)	わかりました。アンケートの骨組みを作るにあたって考えましたのは、まず平成16年度だったか、最初の推進計画を立てまして、今手元に配っています資料は、第二次の計画になります。まず、この第二次の計画を立てるためのアンケートというのは、最初の計画を立てるためのアンケートと同じ設問にしました。同じ設問をすることによって、その5年間の間にどう変化があったというのを、この推進計画で洗い出しをしました。で、この次の計画を立てるためのアンケートを計画しているんですけども、同じ設問にするよりは、全国で行っている子どもの読書についてのアンケートと同じ設問を揃えることによって、今度さぬき市内の5年間でどう変わったかということがわかるように、そしてこの次は、全国の子どもと比べてさぬき市の子どもはどうかっていうのが比べられるということを考え

	<p>て、この新しいアンケート内容を考えています。</p>
(委員長)	<p>アンケート内容は、推進委員さんの方から出てくる内容なんですか。</p>
(事務局)	<p>案としてこちらから出しまして、いかがでしょうかという。やはり現場として、例えば学校の先生などが自分の活動をする上で、こういうアンケートをしてどういうデータが出るかというのが知りたいというのがあれば、そういうのを付け加えていけたらいいかなと思っています。</p>
(委員長)	<p>やっぱり、その本を好きになる第一歩は家庭かなと今言われているんです。本を家庭に取り入れるんじゃなくて、本の読み聞かせを取り入れましょうというのがね。それで、子どもが一人で図書館に行くようになって、家庭からの親子の絆を言われて、読むという、私の為にしてくれているということを子どもが感じてくれたら、自然に絵本が好きになってそれを毎日繰り返すことで、一番難しい思春期の頃、生きる力なんて言われている。物語は忘れてるけど、お父さんやお母さんが自分のために3分間絵本を読んでくれたことが、一生残るといことですね。この質問の中にありますけど、家庭での、読み聞かせを推進する、楽しさを知るのはそこからだと思っんです。だから、大まかにアンケートが出てきているので、多分、つかんでも本当に本を好きになるまでにはいかないような気がしたりするんですよ。そこで入れるのであれば、「家庭での読み聞かせをどうしていますか。ありましたらここに記入…」とか。このあたりから入って、ある程度吸い上げて、家庭でどの程度読み聞かせがされているか。ボランティアさんが本当に学校とかでするのが月に一回なので、ここで楽しさを知るのはまず無理なんですね。だから、中高生になって現場で耳にするのは、小さい時から読み聞かせができてないから、普通なんですね。活字に触れるのが。一番本を好きになる原点は、家庭での読み聞かせなので、本の読み聞かせを取り入れましょうって。絵本を入れるのではなくて、置いておくだけだったら面白くないので、読んであげて初めて言葉も想像力も豊かになる、そんなのは副産物で、親子の絆が一番生まれてくること、読み聞かせの本当に大事なことだと。本の親しみ方というのは。</p>
(委員)	<p>本当ですね。私も、現場にいましたときに本の好きな子が何ってということで、図書の実に努めて、親子への読み聞かせというのを非常に推進してまして、親子通信のようなものに感想を書いてもらったり、というのをしてきたんですけども、私、初めて図書館協議会に来させていただいて、皆さんと話を聞きながら感じたことは、図書館ができてこれ程までに充実したかなと感じたんですね。今までちょっとこういう現場から離れていましたので、このようにアンケートをたくさん、それから統計もたくさん取って、このような本を次は買おうとか、こういう結果が図書館の方で生</p>

	<p>かされているか、と思うんですけども、本当に素晴らしいなと思って聞かせていただきました。それで、本当に子どもたちが絵本好きになるには、家庭が大事じゃないかなと思います。図書館が志度にも出来まして、皆様のご尽力だと思いますけれども、ここまで充実してきてるんだなというのがよくわかりました。それと、私たちは現場を離れまして、そういう関係にいないと、広報で見えるお話のボランティアの方がたくさんされているんだなというのが、通信しかわからないんですが。例えばこのようにいろいろ挙がってきてますよね。このようなものがないんじゃないか、このような事業報告の中の利用状況とかそういうを知るのはインターネットを開くしかなくて、そのようなことも通信してるんですかね。インターネットで流してるというとおかしいんですけど、ホームページというものはあるんですか。</p>
(事務局)	はい、あります。
(委員)	あるんですね。また見させていただこうかなと思います。
(委員長)	推進会議のアンケートを取ってこられたと思うのですが、どういうふうなのをお持ちですかね。
(事務局)	私は、この第二次の計画を立てるときにアンケートをしました。その時のアンケートの設問は、決まっていた。私が担当になった時には。先程も言った通り、前のアンケートと同じアンケートをすることによって、その差を比べるということですね。そのアンケート用紙を集計して思ったのは、ちょっと設問が多いと飽きてきてしまって、途中で。きちんと書いてくれない時もあるなど。わかりやすく、ある程度すっきりしたものになければいけないというのは集計をして思いました。
(委員長)	ありがとうございます。ほかに質問か何か。無ければ、議題4の子ども読書活動推進会議については以上でよろしいですか。それでは、後の会議でアンケートの方をお願いします。それでは、議題5のその他ですが、何かありましたらお願いします。
(事務局)	(さぬき市図書館雑誌スポンサー制度、ディノス・セシールから児童図書への寄贈があったことについて説明)
(委員長)	ほかに何かございませんか。
(委員)	大川の移動図書館の希望とかはありますか。財政難の時に移動図書館のことを言えば怒られるかもしれませんが、そういうお考えはありますか。
(委員)	移動図書館というのは考えてないんじゃないですかね。子どもたちとかは夏休みに冷房が効いているところで勉強してますし、高齢者の人は、9時から5時まで来たりします。本が足りないのはありますが、そうなってきたら、寒川に図書館がありますからね。ですから、移動図書館希望の話

	は聞かないです。
(委員長)	大川の公民館だけですかね。寒川と、志度図書館以外に。
(委員)	大川公民館の図書館、図書室ですかね。
(委員)	ほかにもありますよ。公民館に図書室があるところは。
(委員)	さぬき市に図書館が二つあって、公民館の図書館か、図書室かは知らないんですけども、そこそこにあって。あまりいい状態ではない。
(委員長)	少しずつ、子どもたちはもちろんですけど、一般の方の図書館の利用が増えていって、おはなし会などで小さいお子さんが触れ合うこともあるので、いろんなところの文庫が利用できたらいいなと思うんですけどね。私も図書館協議会に1回目からの入っていて、非常に協議会では色んな意見が出て、図書館のことを考えていただいて、変わってきたように思います。
(委員)	今から夏休みに入ると思うんですけども、子どもたちが勉強できるような環境というのがね。家庭に戻るじゃないですか。自分の孫が、試験中寒川図書館で勉強させてもらっていたんですが、そのように、子どもたちが勉強しようと思えば、静かにできる環境を両図書館も、たくさん子どもたちが行っても、入れてはもらえるのでしょうか。家庭ではなかなかできないので、ガラッと環境を変えれば集中できると思ったので。
(事務局)	実際に図書館は、本を利用して勉強するのならいいんですけど、学習するために利用するのは、人が少ない時期なんかはいいと思います。読書に利用する人が多くなったら、ちょっと遠慮していただかなくてはならないかなという時はあるとは思うんですけど。それは臨機応変でやっていけばいいと思います。
	志度図書館では、席数には限りがありますので、学習に全ての席が占領されますと、本を読みに来られた方、本を使って調べ物をしに来られた方、新聞・雑誌を読みに来られた方から、「座るところがない。」と言われることもありますので、全て学習に開放するというのは難しいと思います。志度図書館の場合、会議室がありますので、学習にも使える席が一杯になった場合は、会議室を開放できます。また、次の会の資料になりますが、公民館図書室のご報告をいただいたのですが、学習室での利用も増えてきているので、使い方を考えたいというのが公民館の方から報告がありました。例えば、寒川図書館でしたら隣に寒川公民館がありますので、そういった市内の他の施設を使って学習ができる部屋…
(委員)	公民館が使えるわけですか。
(事務局)	すみません、くわしくはわからないんですけども、何か学習室として開放しているところ、図書室の部分の関してだろうと思うんですが、そのようなことも考えていらっしゃるようなので、図書館だけじゃなくて他の

	<p>施設の使える部屋を夏休みの間設けることもあるなど話をお聞きして思いました。以上です。</p>
(委員長)	<p>ほかにご覧いませんか。よろしいでしょうか。なければ以上で終わりたいと思います。</p>
(事務局)	<p>池田委員長さん、ありがとうございました。この協議会は年に二回設けておりまして、しばらく空きますが、来年二月に開く予定にさせていただいて、年末ごろからスケジュール調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。本日は大変ありがとうございました。池田委員長さんに閉会のあいさつをお願いします。</p>
(委員長)	<p>(閉会のあいさつ)</p> <p>これを持ちまして平成26年度第1回図書館協議会を終わりたいと思います。本日は活発な協議により、また貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p>